

# 羅針盤



第31号

令和7年3月3日(月)

## ◆ 「克己慎独（こっきしんどく）」

「克己慎独（こっきしんどく）」とう言葉を生徒の皆さんは知っていますか。「克己慎独」の「克己」とは、「自分（自己）の感情や欲望に打ち勝って目的に向かって努力する」という意味で、我を忘れて一つのことに打ち込んでいる人の真剣で清々しい姿を想起する言葉であり、これまでにも紹介したことのある『論語』に登場する言葉です。『論語』では、「自分を慎んで、規範に立ち戻ること」とされており、「世を正すために、一人ひとりが我を捨てて仁の道に徹することである」という教えがもととなっています。また、「慎独」は、「独り慎む」と訓読しますが、「独り、つまりは、誰も見ていないところでも心を正しくする」という意味で、一人であってでも正しい行動をすることの大切さを伝えるための古くは儒教の重要な教書にも記述されている言葉もあります。また、中国の清の時代の文人である劉青霞が自分の書室を「慎独軒」と命名したり、また、同じく清の時代の武人である康呂賜が自分の書斎を「慎独斎」と呼ぶなどして、文武に秀でた人たちが好んで用いた言葉でもあります。とりわけ、この「慎独」という言葉は、周囲に誰もおらず一人でいるときも、人前にいるときと同様に気持ちを引き締めないといけないといったことを表している昔の人の教えですが、一人でいるときにこそ、その人自身の本当の姿が現れるものです。一言で言うとすれば、**自分自身を騙さない「正直さ」と「自制力」を持つべきだ**という意味とも捉えることができます。真剣に勉強をする人にこそ、この慎独の精神が備わっていなければならぬのではないでしょうか。勉強は、生徒の皆さんもよくわかっている通り、徹底して「一人」で行う作業です。「勉強しなさい」と言って誰かを無理やり座らせることはできても、座って「何を」「どれだけ」やるのかは、その人の心次第であるはずです。正直に努力を積み重ねることを怠らなければ、そして、自分自身の「一日の価値」をよく理解していれば、「自分の夢」が叶うことにつながると言えるでしょう。「未来の自分」に対して胸が張れるように、是非「慎独」を積み重ねてもらいたいと思います。



## ◆ 「上巳（じょうし）」の節句

3月3日は、五節句の一つである「上巳（じょうし）」の節句の日です。桃の節句、ひな祭りとも呼ばれ、邪氣を払うためにヨモギ入りの草もちを食べるとよいそうです。ひな祭りの由来は、平安時代に子どもたちの間で流行していた「ひいな遊び」と、厄払いの行事として古くから親しまれてきた人形流しです。人形流



しでは、子どもが生まれてから一定期間保管しておいた人形を、3歳頃になってから川に流して厄を払いました。人形は紙から布へ、布からぬいぐるみのようなものへと、そして今のような豪華な雛人形へと変化してきたそうです。五節句は、他には、1月7日の人日（じんじつ）【七草の節句】、5月5日の端午（たんご）【菖蒲の節句】、7月7日の七夕（しちせき）【七夕祭り、星祭】と、9月9日の重陽（ちょうよう）【菊の節句】があります。いずれも身についたけがれを払う厄払いの行事として、日本文化の中に普及してきたそうです。

